

第56回 河内長野市地域公共交通会議録

会議名称	第56回河内長野市地域公共交通会議
開催日時	令和4年10月20日（木） 午後3時30分～
開催場所	河内長野市役所 802会議室
公開・非公開の別 （非公開とした 場合はその理由）	公開
傍聴者	0人
出席委員	別紙出席者名簿のとおり
会議次第	（1）地域特性に応じた持続可能な公共交通サービスについて （2）河内長野市地域公共交通計画の策定について
会議内容	別紙会議内容のとおり

第56回 河内長野市地域公共交通会議内容

発言者	内容（要旨）
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第56回河内長野市地域公共交通会議開会の案内 ➤ 各委員の出欠状況の報告
事務局	<p style="text-align: center; background-color: #e0e0e0;">議題（1）地域特性に応じた持続可能な公共交通サービスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 議題（1）について事務局より説明。 <p style="text-align: center;">（各委員の主な発言内容および事務局からの回答は以下のとおり）</p>
伊勢委員	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2点あります。 <p>まず1点目は、先ほど、この資料の2ページ目の（2）の、利用促進等の取り組みの4番目で試験運行中にそのニーズを把握するということでしたが、主な意見を見ると、将来的に必要なになるとのこと。試行運行が12月から3月で、4月から本格運行になる。そのときにどうすれば良いかを検討するためにも、4月以降にどういう利用ニーズがあるかについてアンケートで聞いておいていただけると、非常に良いと思います。</p> <p>2点目は、収支の不足部分についてです。半分は自治体が出して、それに足りない部分は自治体で出すという方法にすることで、利用すれば自治体負担がなくなる仕組みを構築して、地域の努力を無にしないような、スキームになっていると思います。ただ、最近楠ヶ丘の地域で色々と関わっていて少し気になることは、50%は自治体負担するが、50%を超えたとき、例えば70%になった場合、自治体側の負担が減りますが、地域にとっては50%を超えた残り20%というのは、負担が減らないことになっています。</p> <p>単年度決算なので難しいと思いますが、超えた分、例えば70%になったら、そのオーバーした20%は地域と折半して、今後の交通サービスに使えるお金としてプールして、お互いにおまみを共有するような仕組みにすれば、その利用が少しでも増え、その分地域に返ってくるということになり、より利用促進が深まる仕組みになると思います。楠ヶ丘はずっと70、80%で継続しており、50%をずっと超えていて、地域や自治体にとっても貢献していたのですが、最近コロナの影響で50%を切り、収支状況が悪くなっているということで日曜日の運行がなくなりました。過去の頑張りを少し反映して、今は50%を切っているけれども過去頑張ってくれていたから、現状維持しようというようなスキームにすれば、より理解が得られるのではないのでしょうか。</p> <p>今後できるかどうか検討いただければと思います。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2点のご質問についてお答えさせていただきます。 <p>1つ目ですが、石見川の4月以降のニーズについて具体的に把握するために</p>

	<p>アンケートをしてはどうかということについてですが、今後新たに乘られる可能性が一番高いのは高校生の方とっております。ただ、受験により、どこの学校に行くのかにより変わってきます。こういったところも確実に把握しながら、本格運行をした場合に、何人乗るか等、精度よく把握していくことが、これからのこの公共交通の維持に繋がっていくとっております。地域の方と共有しながら、精度よく毎年毎年、これからどれくらいの利用者がいるのか、推移を把握しながら進めていきたいと思っております。</p> <p>また、収支が50%を超えたとき、地域に対して何かインセンティブなようなものを設けてはどうかというご質問ですが、こちらについては、ご意見のとおり楠ヶ丘地域の方が頑張っておられて、当初は100%を目指すぐらいの勢いがありましたが、コロナの影響で50%を切りました。楠ヶ丘は自治会で主体的に取り組んでおり高い収支を保っており、また、我々も行かせてもらっている中で非常に熱心だと感じております。そのようなことから、具体的に数値として70%、50%を超えているなどの場合で、地域の方が一丸となってやっていただいているというところに対しては、市も何かしらの対応を考えていきたいと思っております。今回いただいたご意見については、楠ヶ丘や石見川の乗合タクシーにおいて、何か形にできるようなものがあるか、引き続き、地域の方と検討していきます。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>➤ 伊勢先生の意見とも重なりますが、くすまるが、コロナで路線バスに比べてもより大きな減少になったのは、やはり狭い空間を共有するからだと思っております。石見川の乗合タクシーは一般の普通のセダン型のタクシーになりますので、知らない人同士が乗ることに関して、例えば若い子が乗ってくれるのか、疑問があります。そういう懸念もあって、これがくすまるぐらいの車両だったら、気にせずに乗るのかの調査はされていますか？若い人だけじゃなくて、例えば女性も不安を持っているなら、ワンボックス型でくすまる程度の大きさで、そういう抵抗をなくしたら需要が増えるのか。そういったことを踏まえて4月以降についての判断が必要だと思っております。</p> <p>もう1点は、確認になります。自治会の方は、負担ということについての合意が取れているということで良いですか？恐らく利用される方は特定の人だと思っておりますので、特定の人利用分を自治会で出すのは抵抗があるという人がいるかもしれません。今後公共交通をどう支えるかいうときに、国の税金で支えるか市の税金で支えるか、あるいはコミュニティで支えるかということになってくるので、その合意がとても大事なところだと思っております。</p>
<p>事務局</p>	<p>➤ 現在運行しているセダン型のタクシーからワンボックスのハイエースのような、少し広めの車両に変えた場合に乘っていただけるのか、ということですが女性などから、抵抗があるという意見はいただいております。事業者の方とも</p>

<p>柘井会長</p>	<p>交渉中ですが、くすまるのようなハイエースのタイプの車両を使用できるかを協議しております。本格運行になるとときには、どのような形になるかをご報告させていただきます。</p> <p>また、自治会の負担についてですが、こちらの地域には4つの自治会があり、それぞれの地域でご了承いただいております。特に石見川の地域では、こういうスキームで運行継続することについて、自治会の総会で伝えたとき、拍手が起きたと聞いており、地域としても相当な盛り上がりを見せていると感じております。自治会の負担については皆さんの合意が取れているとご報告させていただきます。</p> <p>➤ それでは本件における石見川・小深・太井・鳩原地域乗合タクシーについては引き続き本格運行を目指すとともに、12月から3月までの試行運行について、事務局にて国への申請手続きを進めてもよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし、承認)</p> <p>議題(2) 河内長野市地域公共交通計画の策定について</p>
<p>事務局</p>	<p>➤ 議題(2) について事務局より説明。</p> <p>(各委員の主な発言内容および事務局からの回答は以下のとおり)</p>
<p>日野副会長</p>	<p>➤ この計画についてはこれで良いと思いますが、この先が重要です。公共交通のあり方が令和9年度までということですけど、そこへ行くまでの間に考えておかないといけないことは、今回ちょっと一部修正が入りましたが、立地適正化計画との連携だと思えます。</p> <p>将来的にやはり人口密度がどんどん低くなって、交通に限らず色々な公共サービスの質が落ちていくと思えます。そうすると人口密度を上げていく必要があります。</p> <p>これは90年代からイギリスで、その対策として都市計画でいろいろな方策をやってきており、市がこれからそれをやっていかななくてはならない。人が固まって住めば公共交通として、バス事業も黒字路線が可能になると思えます。立地適正化計画の居住誘導区域でそれぞれ特徴を出さないと、その間の移動がありません。例えば、「駅にみんな行く」だけで終わってしまう。</p> <p>今の河内長野市の居住誘導区域は一つにつながっており、変な形になっている。こちらについては、今後、都市計画の中で議論していくのが良いと思えます。ある地域は特定の特徴を持って集まって住む場所で、別の場所は別の機能を持っていて、その間の往来があって初めてコンパクトプラスネットワークの都市ができるということになります。都市計画の議論も進めて、それをサポー</p>

トできるような公共交通ネットワークで、しかもそれが持続可能・黒字というのがあるべき姿だと思います。

ただ、そうすると、外れたところの部分が出てきますと、その部分についてどう対処していくのかについては議論が必要です。一つの典型的な例が先ほど説明があった議題1の件だと思います。国が支えられないなら市が支える、市が支えられならコミュニティが支える。そういうことをやっていかないと、なかなか全般にわたって一定のサービスを維持することは難しいと思います。少し人口密度が低いところの人の移動をどうしていくのか、そういうことを考えていただきたい。

さらに可能であれば、福祉の方でも地域包括の範囲を広げておられると思いますが、今までのような介護だけでなく、コミュニティカフェ等も含めた地域の方々の方が元気に過ごせるような形で、そういう中に移動も一部入れて、地域包括と連携した移動の話を福祉の方でしていき、連携できるようにしていただきたい。

もちろんメインの取り組みとして、「公共交通より車の方が便利だから車に乗る」という状況を「公共交通と車、どちらを選ぶのか」という形にしないといけません。そういう状況を作る努力を行政はすべきだと思います。そのためには「バスでしか行けない」「観光等との連携の中でバスの方にメリットがある」というものも作っていく必要があります。そういう部分も大きな一つの課題として取り組んでいただきたいです。今回の地域公共交通計画については、これで進めていただいたら良いですけど、その先については、今申し上げた大きな三つぐらいの問題が出てきます。是非考えていただいて、市民の皆さんも含めて色々なご意見をいただき、本市としてどうしていくのかを是非考えていただきたいと思います。

事務局

➤ ご意見ありがとうございます。

将来を見据えて取り組んでいくことが、重要だと感じております。人口密度の低いエリアの取り組みについても、石見川で一度経験した公共交通ネットワークの再構築の仕方を活かしていきたいと思います。今回、石見川でスクールバスを自家用有償運送で運行しつつ、乗り合いタクシーも、また、お出かけ便というデマンドに近いようなものも今試行でやっています。このように複数の交通モードを複合しながら、地域の移動手段を守ってくといった経験も、今後活かしていきたいです。

地域包括との連携に関しましても、河内長野市でも徐々に福祉的なサービスも広がっているため、情報を密に共有しながら、こちらの取り組みと公共交通を補完するような形でやっていければバスの利便性が向上するような形になっていくという未来もあると思っております。

また、市内で「バスでしか行けない」「バスの方がメリットがある」というよ

榎井会長	<p>うな施策を展開していくということについて、ご意見も参考にしながら、将来の形を考えていきたいと思えます。例えば今取り組んでいるような MaaS などが、形になるタイミングが来ると思っています。引き続き、情報もしっかりとこちらで集めて、市の公共交通の施策の展開に活かしていきたいと思っています。</p> <p>➤ 前回の会議でいただいたご意見を反映させ、また資料編も加えていただきました。今後、パブリックコメントを実施するということですのでよろしくお願いいたします。以上をもちまして、第56回河内長野市地域公共交通会議を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございました。今後とも本市の公共交通の維持、充実に向け、皆様のご協力をお願い申し上げます、本日の会議を終了させていただきます。</p>
------	--

河内長野市地域公共交通会議 名簿

	氏名	所属・役職	出欠等
1	会長 榊井 繁春	河内長野市 副市長	出席
2	副会長 日野 泰雄	大阪市立大学 名誉教授	出席
3	委員 伊勢 昇	和歌山工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授	出席
4	委員 中西 克之	国土交通省 近畿運輸局 大阪運輸支局 総務企画部門 首席運輸企画専門官	出席
5	委員 酒井 敏一	国土交通省 近畿運輸局 大阪運輸支局 輸送部門 首席運輸企画専門官	代理：齋藤氏
6	委員 青野 邦男	大阪府 都市整備部 交通戦略室 交通計画課 課長補佐	欠席
7	委員 高平 一哉	大阪府 富田林土木事務所 地域防災担当参事兼地域支援・企画課長	出席
8	委員 西本 学	大阪府 河内長野警察署 交通課長代理	出席
9	委員 秋元 克之	南海バス株式会社 企画部 企画課長	出席
10	委員 岩佐 浩二	南海バス株式会社 営業部 営業部長 兼 営業課長	出席
11	委員 坂本 頼幸	南海バス株式会社 労働組合代表	出席
12	委員 林 邦昭	大阪第一交通株式会社 長野営業所長	欠席
13	委員 坂部 英嗣	近鉄タクシー株式会社 南大阪総合営業所 副所長	出席
14	委員 西谷 興季	南海電気鉄道株式会社 鉄道営業本部 えきまち計画推進部 課長	欠席
15	委員 山本 修	近畿日本鉄道株式会社 古市駅長	欠席
16	委員 山田 昭儀	河内長野市老人クラブ連合会 会長	欠席
17	委員 上野 修二	河内長野市観光協会 会長	出席
18	監事 西尾 元嗣	河内長野市商工会 会長	出席
19	監事 黒田 良子	市民公募	出席
20	委員 仲村 義郎	市民公募	出席
21	委員 中橋 栄一	河内長野市福祉部長	出席
22	委員 島田 俊彦	河内長野市環境経済部長	出席
23	委員 田中 博行	河内長野市都市づくり部長	出席
24	委員 大林 巖	河内長野市総務部長	出席
25	委員 宮阪 晴久	河内長野市総合政策部長	欠席